

2023年度 ドコモ市民活動団体助成事業 活動成果報告書

2024/9/30

団体名	NPO法人 リエゾン	活動タイトル	地域と家庭と学校 みんなが笑顔でつながる子どもの居場所づくり	
<p align="center">望ましい社会状況および団体のビジョン（社会的役割と活動基盤）</p>			<p align="center">■ 活動風景</p>	
<p>●地域の望ましい社会状況(ビジョン)</p>	<p>「地域・家庭・学校が連携し子どもや大人の笑顔が輝く社会」を目指しています。昨年度10月の文部科学省統計の不登校生の数は24万4940人と過去最高を記録しました。学校に行かない子どもたちが、将来社会の一員として自立し、市民として社会で活躍できるようになることは、社会にとってとても重要なことです。社会には引きこもり、社会から疎外されている大人がたくさんいます。そうした人々が、子どものころから家庭・学校以外に居場所を見つけ、社会で生きていく力を身につけていくことができれば、大人になっての引きこもりも減少し、一人一人が活躍し、輝くことができる社会により近づいていくと考えます。</p>		<p align="center">活動の様子</p> 	
<p>●団体の社会的役割 (ミッション)</p>	<p>子どもの居場所づくりとして、様々な事業を実施し、学校・家庭以外の地域社会の中で子どもたちにとって安心・安全な居場所が増えることで、すべての子どもたちが健やかに成長し、将来自立し、社会の一員として活躍できるようになることが、団体の社会的な役割です。特に学校に行かない不登校の子どもたちの居場所をつくり、その子どもたちや保護者の支援をすることで学校や社会につなげていくことが役割です。そのため以下の取組を実施します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 虐待や不登校、貧困を克服するための取組みとしての「フリースクール」 2) 子どもを育てる大人が悩みや喜びを共有できる「相談場所」「集いの場所」の開催 3) スポーツを通して子どもたちを育む取組みとしての「スポーツ体験教室」 			
<p>●団体の活動基盤</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●望ましい人的資源：広報や事務処理を担うとともに、フリースクールに通う子どもたちを支援する常勤のスタッフが複数名在籍し、不登校児童・生徒と共に活動し支援することができること。また活動をサポートするボランティアが常時複数名在籍し必要に応じて子どもたちの支援ができること サポートスタッフはもともと不登校生であった方を任用し、ボランティアについては、将来教員を目指している学生を活用することで、将来教員になった時の見識を広げもらう。 ●望ましい物的資源：不登校児童・生徒が必要とする学習教材やゲーム、スポーツ用品、事務用品などがあり、子どもたちの居心地の良い居場所のスペースが確保されていること ●望ましい活動資金：団体の常勤スタッフの人件費や活動資金が会費、寄付、自主事業により十分に確保され、子どもの居場所や保護者の支援が必要なタイミングで効果のある支出が行える財源を確保すること ●望ましい情報：不登校児童・生徒の学校での様子、関係機関での情報、家庭の情報が常に共有され子どもたちの健全な育成にとって必要な連携が取れていること。また国や大阪府の情報を把握し、関係機関との連携の中で職員の研修が行われ常に新しい情報が把握できていること 			
<p align="center">■ 活動報告</p>		<p align="center">■ 1年間の目標に対する達成状況(まとめ)</p>		
<p>当施設に通う会員が、1人から5人に増加した。学校にほとんど通っていない中学生は、放課後のクラブ活動に参加するようになり、学校内の不登校支援ルームに通うようになった。また週3日活動に参加している小学生は、残りの2日に学校への登校を試みている。また一人一人のコミュニケーション能力の向上が見られた。ある小学生は、入会当初、人前でご飯を食べることができなかったが、今では、みんなとお弁当を食べることができるようになっている。</p> <p>ボランティアスタッフの成長も活動の成果として見られる。小中学校で不登校を経験し、高校を中退しているスタッフは、福祉関連の仕事を目指すために大学を受験しなおした。他のスタッフにおいても不登校の経験者や引きこもっていたメンバー、いじめられていた経験のあるものなどが、活動し自己有用感を高めている。</p> <p>研修講師としての研修を年4回実施し、教員や福祉職員、SC、SSWなどの不登校に対する理解の深まりに貢献することができた。</p>		<p>フリースクールの運営事業に関しては、5人の会員となり、概ね目標を達成することができた。相談事業に関しては、電話相談6件 来所相談10件 メール相談2件と定期的な相談を受けており、相談者の心理的安定に寄与することができた。親カフェに関する参加者は、5人だったが、親カフェの相談者の中でPTAで不登校の親の会を開催したいという相談があり、助言をして、中学校のPTAで不登校の親の会を開催することができた。このことは、柏原市にとっても大きな取り組みであった。</p> <p>講演・研修事業に関しては、中学校区の研修講師として2回、100名程度を対象に実施することができた。また柏原市教育委員会主催の研修では、不登校に関する理解の促進や、フリースクールに対する理解が進んだと考えられる。</p> <p>週1回勤務の、アルバイトスタッフを1人、不定期のスタッフを2人任用することができ、子どもたちの支援につながった。ボランティアスタッフも10人が活動に参加することができた。ただボランティアスタッフに関しては、4月以降、定期的な参加者が少なく、子どもたちとのつながりの面で不十分さが見られた。今後は、定期的に参加することができるボランティアスタッフやアルバイトスタッフの任用が求められる。</p>		
<p align="center">■ 事業を通じて得られたノウハウ</p>		<p align="center">■ 望ましい社会状況を達成するための課題</p>		<p align="center">■ 活動成果のアピールポイント（自由記入）</p>
<ul style="list-style-type: none"> ●学校と連携することで、子どもたちの出席認定につながっている。また子どもたちや保護者への支援がスムーズにできている。 ●ボランティアサイトに登録することで、ボランティアの応募が増えた。ボランティアの枠を高校生まで広げることにより通信制の高校生など元不登校生の参加が増えた。大学生や社会人も含めて、ボランティア自体の自己有用感が高まっている。 <p>柏原市の不登校支援センターと連携することで、行事の多様化や交流によるコミュニケーション能力の向上が見られた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●SSWの施設見学会などにより、施設の紹介が増えた。 ●学校訪問を定期的に行うことで研修講師依頼が増えた。 ●SNSの更新等は、詳しいスタッフなどに任せることも必要である。 		<p>不登校の子どもたちが、家庭・学校以外の居場所を見つけ、将来社会に出ていき、自立していくための力をつける。そのような社会になるための資源としてフリースクールの運営事業を行っています。しかし柏原市内の小中学生で、学校以外の居場所に通っている子どもたちは数人です。大半の子どもたちは家庭にいます。また小学校からの不登校生は、学力やコミュニケーション能力に不安を抱え、将来に不安を感じています。</p> <p>もっと多くの子どもたちが、社会に出るため、自立していくための居場所を得ることができないと、増え続ける不登校生や引きこもりの未来が見えてきません。</p> <p>少しでも子どもたちが通いやすい居場所が今後も必要になってくると思います。</p>		<p>この1年間の活動を通じて</p> <p>学校に行かない選択をした子どもたちの居場所としての活動に取り組み、子どもや保護者の自己肯定感の向上を を達成しました。</p> <p>■ 受益者の具体的な変化（自由記入）</p> <p>学校に登校する機会が増えた。人前でご飯を食べられるようになった。コミュニケーションが取れるようになった。周りの人に気遣いができるようになった。保護者が不登校の親の会を開催した。アルバイトスタッフが大学に進学しなおした。アルバイトスタッフがボランティアサークルを立ち上げた。</p>